



栃木市マスコットキャラクター
とち介

農業委員会だより とちぎ

2026.2.1
第 24 号

発行：栃木市農業委員会
編集：農業委員会だより編集委員会
電話：0282-21-2393



大鍋で豚汁を作る農業委員（とちぎアグリフェスタ）



豚汁を販売する農業委員（とちぎアグリフェスタ）



豚汁を販売するテント内の様子（とちぎアグリフェスタ）



下都賀地区女性農業委員ネットワーク研修会の集合写真

目次

会長・推進委員長あいさつ	P2
農業委員・推進委員名簿	P3
とちぎアグリフェスタ2025	P4
下都賀地区女性農業委員 ネットワーク研修会	P4
意見書提出	P4
トチノフェア2025秋	P5
関東ブロック研修会	P5
事務局からのお知らせ	P5.7
運営委員会・専門委員会の紹介	P6
頑張ってます！ Agrist	P7.8
編集後記	P8

とちぎアグリフェスタ2025が11月22日（土）に大平会場で、12月6日（土）に栃木会場で開催されました。このお祭りは、地元農産物のPR及び生産者と消費者の交流促進を目的として開催されるもので、農業のお祭りです。

農業委員会では、12月6日の栃木会場（栃木市総合運動公園）に参加出店しました。

当日は、あたたかな小春日和で絶好のイベント日、お米や野菜の無料配布もあり、多くの人々で賑わいました。

【取材：田中 徹委員】

※市民の皆様に農業委員会の活動をお知らせするために配布させていただきます。

令和8年度より、農業委員会だよりは全戸配布ではなく、班内回覧とさせていただきます。引き続きよろしくお願いいたします。

会長あいさつ



栃木市農業委員会
会長 若色 昭松

この度、委員の任期満了に伴い、昨年7月の総会で委員間の互選により会長職に再就任することになりました。

日頃、本市農業委員会の運営に対して多大なるご理解ご協力をいただき厚く感謝申し上げます。農地法に基づく許可業務、農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消に委員会が一丸となって取り組んでいきたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。

令和7年4月1日から、農業経営基盤強化促進法などの改正に伴い、農地の個人間の貸し借りは廃止となり「農地法3条に基づく貸借」または「農地中間管理事業による貸借」（地域計画に位置付けされないと権利設定が出来ません）のどちらかになっております。計画データによると10年後の耕作者が決まっている農地は「3〜4割」程度

であり、山間地や未整備地区においては「6〜7割」が決まっております。地域計画を進めるには一段の集積が必要となります。地元の田園風景を守るためにも何度でも話し合いの場を持ち、農地の流動化を進める必要があると考えます。どうか農地は個人ではなく地域全体で守ってくださるよう、お願いいたします。

米価格の高騰はどうでしょうか。高騰をうけて今年の価格はどれ位かと、一喜一憂し考えてしまいます。このようにことが続くと生産者の意欲も減退の一途を辿るばかりかと思われます。昨今の農業情勢は毎年のように変化しているため、水田か畑作かにかかわらず作物ごとに生産性向上を支援する仕組みが必要だと思います。基本的には需要に応じた生産が原則となりますが、それでも農業は自然を相手に行うものであり、統計をしつかり取っていただき、対策を考えてほしいと思います。これらのことを県農業会議へ働きかけをする所存でございます。

最後になりますが地元集落、土地改良区などで話し合いの場がございます。また、積極的な意見をお聞かせください。ご協力をお願い申し上げます。

農地利用最適化推進委員

委員長あいさつ



農地利用最適化推進委員
委員長 木村 隆夫

昨年7月の改選により農地利用最適化推進委員委員長に再就任いたしました。3年間どうぞよろしく申し上げます。

農業委員会は農業委員と、農地利用最適化推進委員で構成されています。

農地利用最適化とは、担い手への集積・集約化、耕せなくなる遊休農地の防止や解消、そして新たに農業者を増やすことの3つの活動を通して「耕されている農地を耕せるうちに耕せる人につないでいく」ことです。

私自身この地で米、麦をつくり始めて50年以上、農業委員としても20年近く勤めた経験を活かし、栃木市の農業の発展のために力になりたいと思っています。

農地利用最適化推進委員は皆さんの身近な相談員でもあります。農業、農地に関してお困りのことがあれば、お近くの推進委員にお気軽にご相談ください。

MEMBER LIST

農業委員

地域	氏 名	電話番号
栃木	若色 昭松	27-3477
	泉田 裕美	27-7660
	野尻 真悟	090-8460-7873
	巻島 陽一	20-3120
	田中 健一	27-9052
	縫村 啓子	31-2224
大平	小林真理子	43-3848
	毛塚 登	43-0400
	生澤 良一	43-5043

地域	氏 名	電話番号
藤岡	石塚 一彦	67-3624
	糸井世志江	62-4416
	田中 徹	62-9055
	大谷 朗	62-4471
都賀	大塚 幸八	27-6415
	早乙女とみ	27-8533
	渡邊 昭男	27-3228
西方	田谷 安久	92-0252
	鈴木美智子	92-8231
	五十畑節子	55-1583
岩舟	青木 則夫	55-2797
	中田 秀雄	57-7534

MEMBER LIST

農地利用最適化推進委員



地 域	区 域	担当推進委員	電話番号
栃木	1 万町、倭町、旭町、室町、城内町1～2丁目、神田町、本町、沼和田町、河合町、日ノ出町、片柳町1～5丁目、湊町、富士見町、境町、平井町、菌部町1～4丁目、入舟町、祝町、箱森町、小平町、嘉右衛門町、錦町、泉町、大町、昭和町、柳橋町	木村 隆夫	24-1885
	2 今泉町1～2丁目、平柳町1～3丁目、大宮町	若色 武男	27-1636
	3 仲仕上町、藤田町、久保田町、宮田町、高谷町、樋ノ口町	新村 忠央	070-2829-8200
	4 柏倉町、小野口町、皆川城内町（三五、城下北、鳥砂、荒宿、城下南、城南、中央）、志鳥町	関口茂一郎	24-1805
	5 大皆川町、岩出町、泉川町、新井町、皆川城内町（松原、新町）	巻島 一記	—
	6 吹上第1、吹上第2、細堀町、木野地町、川原田町	小倉 一吉	090-5796-0805
	7 宮町、吹上第3、吹上新道、野中町、野中松原、千塚町、大森町、仲方町、梓町	峯岸 松司	31-0038
	8 尻内町、梅沢町、大久保町、鍋山町、星野町、出流町	石川 賀一	090-3246-2322
	9 惣社町、柳原町、大塚町	谷中 克己	090-8942-6568
	10 寄居町、国府町、大光寺町、田村町	島田 明	27-5332
大平	1 横堀、牛久、土与、川連、北武井	山根 久男	—
	2 蔵井、真弓、上高島、下高島	舘野 肇	43-6410
	3 新、西野田、榎本	小林 敏恭	43-6009
	4 西水代、伯仲	柴田 和男	43-4048
	5 富田、下皆川	平本 勲	43-4444
	6 西山田	須藤 時夫	43-4305
藤岡	1 部屋、緑川、新波、石川、帯刀	佐山 幸男	090-1048-2311
	2 蛭沼、西前原、富吉、中根	綾部 直美	67-2622
	3 藤岡、下宮、内野	田沼 正能	62-1645
	4 赤麻	塚田 宏一	—
	5 大前	海老沼順一	090-6172-2323
	6 甲	上岡 秀幸	62-9641
	7 都賀、大田和、太田	上岡 秀行	62-4464
都賀	1 合戦場、平川、升塚、下新田、新名地、宿、中新田	篠原 芳明	28-0737
	2 桜本、中荒井、鶯の宮、橋本、上新田、家中本郷、中妻中の内	青木 一宏	27-6429
	3 原宿下、原宿上、木の東、木の西、木の北、桜内、臼久保、大橋	癸生川 武	—
	4 富張、深沢、南嶺、十文字、仲坪、宿坪、中郷、野上	氏家 孝志	92-7531
西方	1 本城、元、本郷	吉井 光弘	090-8855-6926
	2 金崎、金井	荒川 栄一	92-2378
	3 真名子	若林 英夫	92-7337
岩舟	1 五十畑、和泉、静和、鶯巣	櫻井 芳久	55-1699
	2 静戸、曲ヶ島	山下 道俊	—
	3 静、下津原、豊岡	永島日出男	55-1494
	4 古江、新里、三谷、下岡、上岡	石塚 亮介	55-8523
	5 小野寺下、小野寺中、小野寺上	水落 恒夫	51-2458

とちぎアグリフェスタ 2025に出店

令和7年12月6日（土）栃木市とJAしもつけの共催によるとちぎアグリフェスタ2025が開催されました。天候に恵まれ、朝早くから多くの来場者で賑わっており、先着200名限定のお米、大根の無料配布を楽しみにたくさんの方が行列を作っていました。

農業委員会では、大鍋で豚汁を作って販売しました。（表紙に写真掲載）委員達で材料を持ち寄り、前日から準備を始めました。お客さんから「具がたくさん入っていて美味しかったです！」という言葉をいただきました。

とち介、シモンちゃんとゆるキャラじゃんけんで楽しそうに遊ぶ子供達の姿や、農産物を手にした大人達の姿が見られ、幅広い年代の人達がそれぞれのスタイルでお祭りを楽しんでいました。

これからも農業委員会として農業に関わる色々な人達と力を合わせて、活動していきたいと思っています。

【糸井世志江 委員】

下都賀地区女性農業委員 ネットワーク研修会に参加

県南3市2町の女性農業委員と農地利用最適化推進委員で構成された「下都賀地区女性農業委員ネットワーク」が12月4日（木）下野市で行われました。今回は下野市農業委員の大越さんの自宅を会場に花の寄せ植えを楽しみました。花苗は壬生町農業委員の鯉沼さんが提供してくださいました。

その後、下野市農業委員の宇賀地さんから経営の話を聞かせていただき、また、大越さんのライスセンターを彷彿とさせる設備を見学、経営規模の大きさに驚きました。大越さん宅では生産されたお米を活かし「らんどまあむ」という食品加工場も経営しており、数人のパートさんたちとお弁当を作っているそうです。最後に、昼食をとりながら、他市町の方々と意見交換することができ、有意義な研修となりました。

【鈴木美智子 委員】

農地等利用最適化推進施策に関する 意見書を提出しました

7月10日（木）、農業委員会から市長並びに市議会議長に対し、令和8年度栃木市農地等利用最適化推進施策に関する意見書を提出しました。この意見書は、農業者や農業関係団体から意見・要望を汲み上げ取りまとめたものです。これらの意見を市の施策に反映するため、毎年意見書を提出しています。

意見書の概要は次のとおりです。

① 農地の利用集積について

地域計画・目標地図で掲げた担い手へ確実に農地を斡旋していくため、引き続き地域住民と農業関係者が話し合う場の設定をお願いしたい。

② 遊休農地対策について

農業者だけでは農地の遊休農地化を防ぎきれなくなっている現状を県や国に伝え、地域の農地を含めた一体的な環境保全の新たな仕組みづくりの検討をお願いしたい。

③ 新規参入の促進について

新規参入者が特に初期段階において、引き続き十分なアドバイスや助成を受け、安心して農業に取り組めるようにお願いしたい。

④ 担い手対策について

農業法人や大規模農家を増やし、担い手不足の解消を着実に進めていただきたい。

⑤ 獣害等の対策について

補助制度の拡充や無償貸出制度の検討、地域猟友会の若手メンバーの加入・育成などを進めるとともに、イネカメムシについては、地域全体で無人へりによる防除の複数回実施等をお願いしたい。



梅澤議長に意見書提出
左から高際前職代、若色会長、
梅澤議長、五十畑職代



大川市長に意見書提出
左から高際前職代、若色会長、
大川市長、五十畑職代

トチノフェア2025秋に 出展しました

令和7年11月15日、宇都宮市のJ Aビルで栃木県最大規模の就農相談会「トチノフェア2025秋」が開かれました。全体で59名の就農相談のうち、14名が県外からの申込でした。セミナー会と相談会が行われ、セミナー会では就農するにあたっての準備知識の講習や就農実践者の事例報告等があり、相談者は希望するセミナーを受講しました。

また、別会場に設置された相談会で栃木市のブースには、ニラ経営、ぶどう経営、水稲経営を希望する3名の方々が相談に訪れました。経営に対する考え、意欲等、就農実現に向けて、課題に対する解決策について意見交換をし、これから相談者が目標に向かって何を行うことが必要かを明らかにすることができました。【生澤良一 委員】



関東ブロック研修会に参加しました

令和7年10月23日、千葉市の県教育会館にて千葉、神奈川、山梨、群馬、埼玉、茨城、栃木各県の女性農業委員が集う「関東ブロック女性農業委員等研修会」が開催され、栃木市からは全7名が出席しました。

事例発表では八千代市の酪農家で農業委員として活躍されている黒崎玲子氏のお話を聞きました。同地域の農業者と共に率先して地域計画に取り組み、また家族の協力の元で女性目線の意見を積極的に発言する事で、女性委員の増員や女性農業者同士のつながりが増え、委員活動の地域理解がより進んでいる様子が伝わりました。

特別講演では『家計の視点から考えるこれからの食』と題して経済ジャーナリストの萩原博子氏の食は健康につながるという原点のお話から、消費者と生産者の関係の再構築や安全保障、「買い物には冷蔵庫の中をスマホで撮影してから行きましょう」と家庭でできる食品ロス削減の紹介等、幅広くお話をしていただきました。

今回のような直接集う形での研修会を含め、全国農業新聞を活用して勉強会や意見交換会を行っている委員会もあるとのことでしたので、これらを踏まえて栃木市でもより良い委員活動につなげていければと考えています。

【縫村 啓子 委員】



知って得する農業者年金

農業者年金で生活の安定を考えませんか？

経営者だけでなく、夫婦や親子そろっての加入をおすすめします。

6つのポイント

① 農業者の方なら広く加入できる。

※次の要件を満たす方ならどなたでも加入できます。

● 国民年金第1号被保険者（国民年金保険料納付免除者を除く）

● 年間60日以上農業に従事

● 65歳未満の方（60歳以上は、国民年金の任意加入被保険者）

② 積立方式・確定拠出型で、少子高齢時代に強い

③ 保険料は月額2万円から（35歳未満で政策支援加入の対象とならない方は1万円）6万7千円の範囲内で、千円単位で自由に選べる。

④ 終身年金。80歳前に亡くなられた場合は、死亡一時金がある。

⑤ 税制面の優遇措置がある。

⑥ 一定の要件を満たす農業者には保険料の国庫補助がある。

くわしい内容については、栃木市農業委員会事務局（21-23393）までお問い合わせください。

運営委員会・専門委員会の紹介

運 営 委 員 会

委員長 生澤良一

運営委員会は私と田中健一副委員長を代表として、会長と会長職務代理者を含めた6人の農業委員で協議を行っています。

本委員会は農業委員会の重要案件や各事業方針について協議するとともに、農業委員会の円滑かつ適正な運営を期するために設置されている組織です。また、農業委員会総会や全体会議で審議する内容について、事前協議する場でもあります。



農 地 委 員 会

委員長 大塚幸八



農地委員会には耕作放棄地委員会と言われる時代もありました。農地の復元が困難で山林化した農地を現地確認した上で、農地判断をすることがあります。判断後、土地の所有者は山林・雑種地などの地目変更が可能となります。今回はこの活動を行いたいと考えております。また農地利用最適化推進委員と連携して遊休農地の再生利用状況の確認をしたり、農地あっせんなども行っています。市内6地区より7名の委員が選出され、地域における実状は異なりますが、地域農業のあり方を話し合いながら「地域計画」の実現に向けて活動してまいります。

農業委員会だより編集委員会

委員長 泉田裕美

農業委員会だより編集委員会では、私と青木則夫副委員長を中心に8名の農業委員が取材、原稿執筆等に励んでおります。農業や農地に関する情報提供、頑張っている農業者の紹介、農業委員会の活動をお知らせするため年2回、農業委員会だよりを発行しています。全国の農業委員会だよりの記事を日々、研究しています。その甲斐もあり、一昨行われた「第30回農業委員会だより全国コンクール」で全国農業新聞特別賞を受賞しました。これからも、より良い広報誌を発行できるよう情報収集に努めていきたいと思っております。



なでしこ委員会

委員長 小林真理子



女性農業委員の登用率が国及び県の目標とする30%を超え、現在のなでしこ（女性）委員は7名になりました。主な活動は、女性の視点を活かしての食育活動、家族経営協定の推進、農業機械の講習会、女性農業者同士の交流会、女性農業者への支援などです。食育活動では、地元の小学生を対象とし、いちごの収穫や流通等を学ぶことで農業の素晴らしさと食の大切さをPRし、地域の農業に興味を持つ子供達が増えるよう活動しております。

アグリスト 頑張ってます！ Agrist(農・業・人)

地域の会社として 地元との関係性を 大切に！

栃木市岩舟町曲ヶ島
農事組合法人まがのしま

従業員 ^{さ やま} 佐山 ^{としあき} 利明さん

佐山さんは農事組合法人まがのしまに就職して5年目になる社員です。農事組合法人まがのしまは、佐山さんのご実家を含め、周辺の農家がまとまってできた営農組合が法人化した団体です。

○経営状況を教えてください

水稻65ha、ビール麦30ha、ニラ40aを作付けしています。年齢層は20代3名、30代4名、40代2名、50代2名、60代2名、70代1名の社員14名で仕事をしています。

○農業をはじめたきっかけは？

祖父、父が農業を営んでおり、水稻、麦を作付けしていました。その後、祖父は農事組合法人まがのしまの前身で、集落営農まがのしまの立ち上げに携わりました。また、父も同組織の従業員として働いておりました。そんな二人の姿に影響を受け、高校生くらいから自分も農業をやりたいと強く思うようになりました。高校を卒業後、一旦は集落営農まがのしまに就職しましたが、その後転職し、10年程ドライバーをしていました。しかし、幼い頃に芽生えた農業をやりたい気持ちは消えず、現在の農事組合法人まがのしまに戻ってきました。

○工夫している点、気を配っている点は？

地域に密着した会社なので、地元の人々との関わりを大切にするために生活道路や農道の草刈り、小枝切等を行っています。地元住民に応援してもらえる会社であることが何より大切なことだと考えています。

○農業をやっていて喜びと課題は？

自分達で撒いた種が成長し、作物となって出荷される。この一連の過程は、自分の子供が成長して家を出ていく姿に似ています。それを毎年見られるのは農業ならではの喜びだと思います。



一方、課題としては、経営面積を増やすために作業効率を上げることを考え、乾田直播やディスクロータリーでの耕起による時間短縮を考えています。

○最近の仕事、プライベートでの状況を教えてください

日々の仕事と夕食時のお酒が楽しみです。また、栃木市消防団に所属しているのですが、訓練等を通じて、地域の方々や団員同士で協力し、信頼関係を築いていくことが楽しく感じます。ただ、現在の米価に関して、不安と期待があり今後の農業に対して状況を見ていきたいと思っています。

《取材：青木 則夫委員》

全国農業新聞を
購読してみませんか？

全国農業
新聞

発行所…全国農業会議所

毎週金曜日発行

全国農業新聞は、地域農業者の代表機関である農業委員会のネットワークが発行する農業総合専門紙です。

農政の動きと、かわる経済・経営・農地・地域社会問題等、毎週様々なテーマをお伝えしています。現場で役立つ栽培技術・流通の情報、魅力的な農家の取り組みなど幅広く伝え、経営とくらしに役立つ新聞として高い評価を受けています。

紙面はオールカラーで「見やすい」「分かりやすい」新聞を目指し、編集・発行しています。ぜひ一度手に取っていただき、情報収集のツールとして全国農業新聞を購読してみませんか。

購読のお申し込みは、農業委員又は農業委員会事務局（☎21-2393）までご連絡ください。

アグリスト 頑張ってます! Agrist(農・業・人)

頑張りに応えてくれる やりがいのある農業!

栃木市国府町

しまだ のりお
島田 騎央さん(兄)

ひろのり
裕功さん(弟)

島田さんご兄弟は就農9年目になるナス農家です。兄の騎央さんは、現在JAしもつけナス部会栃木支部会長を務めており、ナス部会を盛りあげています。弟の裕功さんは歌うことが趣味でとちぎテレビのある番組で「王様」になったことがある歌唱力の持ち主です。

○経営状況を教えてください

露地ナス35aに加え、2年目から始めたハウスナス25aをすべて2人で作業し、JAに出荷をしています。



騎央さん

○農業をはじめたきっかけは?

2人はそれぞれ運送・設備関係に勤めていましたが、退職のタイミングが同じであったこと、幼少期から家の手伝いをするなど農業に興味があったこと、JAの募集を見て、初期投資も少ないことからナス栽培を決意しました。

○工夫している点、気を配っている点は?

土壌診断を元にした土づくり、病虫害防除の徹底、また設備面では、8棟あるハウスのうち4棟は自分達で施工し、弟が前職の経験を活かして配管設備等を担当し、経費を抑えました。

○農業をやっていて喜びと課題は?

一番は食べてもらっておいしいと言ってもらえることです。がんばった分収益が増えることや直接経営に携われるところも喜びのひとつだと思います。また、趣味、家族の時間が取れることも農業の魅力的なところだと思います。課題は、近年の資材高騰の中、工夫して利益を出すことです。

○今後の目標はなんですか

ハウス栽培の割合を増やし、息子（騎央さん長男）が長野で農業関係の仕事をしているので、将来一緒にできたらいいと思っています。



裕功さん

《取材：早乙女 とみ委員》

編集後記

新体制になって初めての農業委員会だよりとなります。地域を担当する農業委員と農地利用最適化推進委員の紹介を大きく掲載させていただきました。開かれた農業委員会を目指し、農業や農地に関する情報発信、活動報告など皆さまに親しむを持って読んでいただける広報誌として編集委員一同、努めていきたいと思っています。読者の皆様からのご意見、ご感想、取材等ご要望をお寄せいただけると幸いです。

《編集委員長 泉田 裕美》

農業委員会だより編集委員会

委員長	泉田 裕美
副委員長	青木 則夫
委員	小林真理子
委員	糸井世志江
委員	田中 徹
委員	鈴木美智子
委員	早乙女とみ
委員	縫村 啓子

バックナンバーは
ホームページでもご覧いただけます。

<https://www.city.tochigi.lg.jp/soshiki/60/59568.html>

